

2013.10.6.
10:00~15:00

平成24年度より中学校の体育(1年、2年)でダンスの必修化が完全実施となったいま、ダンス授業の在り方をめぐり多種多様な議論が起きている。中でも、ジェンダーという切り口は、ダンス授業を考えるにあたって欠かすことのできない視点のひとつである。本シンポジウムは、研究者と現場の教員が一堂に会し、ダンス授業におけるジェンダーを検討する、本邦初の試みである。この機会にぜひご参加下さい。

公開シンポジウム

ダンス授業における ジェンダーを考える

多様性の
捉え方を
めぐって

2013年10月6日(日) 10:00~15:00

お茶の水女子大学共通講義棟1号館301号室

第Ⅰ部 ジェンダーの視点からみるダンス教育

第Ⅱ部 授業実践から考えるダンス教育の問題

※本シンポジウムは日本学術振興会科学研究費補助金を受けた研究の成果の一部として開催されます。

ダンス授業におけるジェンダーを考える

第Ⅰ部 ジェンダーの視点からみるダンス教育 10:00～12:00

司会：猪崎 弥生（お茶の水女子大学）

コメンテーター：米谷 淳（神戸大学）

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. ダンス教育におけるジェンダー観の推移 | 酒向 治子（岡山大学） |
| 2. 教師としての実践を踏まえたジェンダー観 | 宮本 乙女（日本女子体育大学） |
| 3. ジェンダー論における身体性の問題 | 田中 俊之（武蔵大学） |

第Ⅱ部 授業実践から考えるダンス教育の問題 13:00～15:00

司会：猪崎 弥生（お茶の水女子大学）

コメンテーター：柴 真理子（お茶の水女子大学）

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| 1. 中学校の実態調査：ダンス男女必修化に伴う変容と課題 | 中村 恭子（順天堂大学） |
| 2. 事例報告1：初めてのダンス指導を通して見えてきた成果と限界 | 木原 慎介（墨田区立桜堤中学校教諭） |
| 3. 事例報告2：男女共習授業を行う中での摸索 | 出原 智波（元岡山市立操山中学校教諭） |
| 4. ダンスと評価の問題：教科教育の立場から | 原 祐一（岡山大学） |

● お問い合わせ・申込み方法

E-mail もしくはお電話にて お問い合わせ・お申込みください。

必要事項 ご氏名、ご勤務先/ご所属、ご連絡先（ご住所・E-mail・電話番号）

宛先 お茶の水女子大学 舞踊教育学コース シンポジウム事務局 宛
電話：03-5978-5271

E-mail: dance.gender@gmail.com（※件名に「シンポジウム参加」と明記してください。）

申込期限 9月25日（水）必着

● 当日について

- ・当日配布する資料について、実費をいただきます。
- ・学内の食堂は休みとなりますので、昼食はあらかじめご用意下さい。

● 参考

お茶の水女子大学ホームページ <http://www.ocha.ac.jp/index.html>

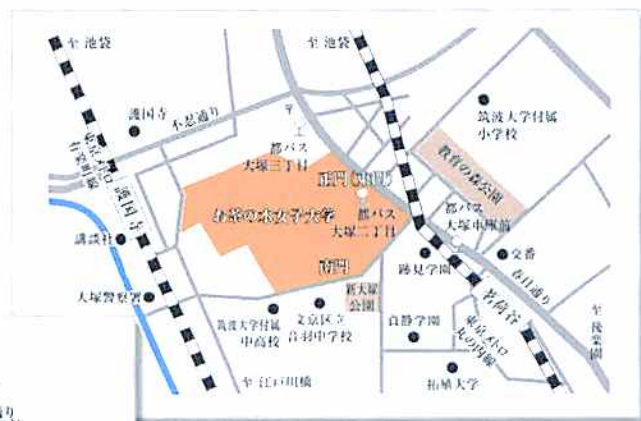
猪崎 弥生 研究室ホームページ <http://www2.cf.ocha.ac.jp/buyou/izaki/>

● 交通機関

東京メトロ丸の内線「茗荷谷駅」

有楽町線「護国寺駅」より徒歩 10 分

※当日は正門（東門）からお入り下さい。



アクセスマップ



キャンパスマップ

共通講義棟（下記地図⑤）

多様性の
捉え方を
めぐって